

「狭い戸口」



ルカ 13 章 22-30 節

兄弟姉妹の皆さま

涼しい日々が続いています。新しい季節と共に神様からの恵みを感謝の心をもって受けましょう。夏休みの間、家族や友人との良い時間を無事にお過ごしになられたことと思います。神のみ旨に生きている私たちの人生を支えるために、神様はすべての良いことをいつもお与えくださいます。それを想う時私たちは神様に感謝せずにはいられないでしょう。

9月に入りました。9月には聖グレゴリオ1世教皇教会博士、聖マリアの誕生、日本205福者殉教者、聖ヨハネ・クリゾストモ司教教会博士、十字架称賛、悲しみの聖母、聖コルネリオ教皇聖チプリアノ司教殉教者、聖アンデレ金と同志殉教者、聖マタイ使徒福音記者、聖ピオ（ピエトレルチーナ）司祭、聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭、聖トマス西と15殉教者、聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使、聖ヒエロニモ司教教会博士の記念や祝があります。また、9月1日から10月4日はすべての命を守るための月間となり、9月4日には被造物を大切にする世界祈願日となります。そして、9月19日は敬老の日です。大天使、聖母マリアと聖人らの祈りを願いながら9月を過ごしましょう。

さて、今回は「狭い戸口」について書かせていただきます。

「狭い戸口から入るように努めなさい。

言っておくが入ろうとしても入れない人が多いのだ。」（ルカ 13・24）

この一節は何を教えているのでしょうか？それは、私たちが自分の意志や努力によって天国に入ることができないことを明らかにしています。さらに、自分の努力で天国に行こうとする人もいますが、それはうまくいかないことを教えてくれています。死後、私たちの主に出会ったとき、彼らは自分たちが神の国の一員ではないことに驚くでしょう。

私たちの主からのこの明確でややショッキングな言葉は、あなたが一步下がって自分の人生を振り返り、自分が歩んでいる道を誠実かつ謙虚に検討させる効果があるはずです。ある人々が実際に遭遇してしまうであろうこの経験についてのイエスの率直さと明快さは、あなたの目を開いて、イエスがあなたについて話しているかどうかを正直に調べるのに役立つはずです。

時には真実に向き合い、「キリストよりも自分自身に頼ろうとしているのではないか」ということを認めるには、真の謙虚さが必要です。「狭い戸口」とは、謙虚な者が入る門です。プライドと独立自存は、私たちが天国への道を自分で作ろうとするように導きます。しかし、この道は決して正しいものではありません。

「狭い戸口」から入ることは、神に耳を傾けることでもあります。神の羊飼いであるイエスは、いつも優しく私たちを呼んでいます。私たちが彼の声に注意を払って初めて、彼が私たちをどこに導いているかを知ることができます。そうして初めて、唯一無二の狭い門をくぐる道が見えてきます。

今日、私たちの主と顔を合わせて出会った瞬間を想像してみてください。その出会いとは？両手を広げて「よくやった、善良で忠実な僕よ、永遠の報いに入ってください」と言ってくれる時でしょうか。それとも、「わたしはあなたを知りません」と主が言う時でしょうか。今こそ、あなたの信仰生活に正直に向き合い、私たちの神聖な主の力だけに頼るように努める時です。

2022年9月

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.